

Hm²助成支援団体のご紹介

可部地区社会福祉協議会ボランティアバンク「りんりん可部」

代表 ^{うえもり あつこ}
上森 厚子さん

広島市安佐北区可部地区内に住む住民が、お互いに助け合い、安心して快適な生活を営むことができるように、自ら進んで支援活動に取り組むことを目的に平成22年8月に結成されたのが、「りんりん可部」です。

会を作るきっかけとなったのは、可部地区の社会福祉協議会にボランティアの依頼や相談が増えたことです。協議会内で話し合った結果、もっとスピーディにボランティア活動に取り組める組織の必要性を感じ「りんりん可部」はスタートしました。

ボランティア活動を通じて地域の輪を広げる

会の名称にもなっている「りんりん」は、電話が鳴る音をイメージ。依頼の電話が数多くあるように、との願いが込められています。

「活動は、可部地区の拠点となる事務所で週2回、午前と午後で当番を決めて依頼者からの連絡を待ちます。独り暮らしの

お年寄りや障害を抱えている方からの依頼を重点的に取り組んでいます。依頼の連絡が入り次第、内容に応じて会のメンバーの中から適任者を派遣しています。依頼は個人支援と地域支援の2つに分か



▲ 事務所の様子

れます。買い物や家の掃除といった日常の小さな困りごとから、幼児の遊び相手や小さな子どもを抱えてなかなか外出できない家庭の留守番、登下校の見守り、JR可部駅前広場の清掃活動などさまざまな内容があります。子育てに関しては、長年経験してきたメンバーも数多くいるので、微力ではありますが地域の子育て支援にも役立っているのではないのでしょうか」と事務局長の叶谷史郎さんは語ります。代表の上森厚子さんをはじめ、37人のメンバーは、お揃いのオレンジ色のベストを着用することでボランティアの取り組みに対する意思統一を図り、地域の人たちに会の存在を知ってもらい、もっとボランティアの必要性を意識してもらおうと考えています。

「まだまだ会の存在を知らない人も多いので、もっと情報発信に取り組む必要があると感じています。ボランティアを利用する人を増やすと同時に、一緒に会に参加し、活動してくれる人も増やしていければと考えています。それが、地域の活性化、地域に密着した支援に繋がるのではないのでしょうか」と叶谷さんは、今後の展望について語ってくれました。



▲ 草刈りボランティアの様子

藤の木学区まちづくり推進協議会

代表 ^{たなか ゆたか}
まちづくり委員長 田中 豊さん

広島市佐伯区藤の木学区内の4つの町内会の班会議や公民館で開催する学区4町住民参加型ワークショップの会合の中で、雑草の生える殺風景な団地東側出入口のり面一帯を、夢のある花畑に変えることはできないだろうか、といった意見が上がり、はじめたのが「藤の木学区まちづくり推進協議会」の“団地東側のり面芝桜お花いっぱい運動”です。

住民みんなで力を合わせ、ひとつの夢に向かって進む

「平成18年に、藤の木学区まちづくり推進協議会は結成されました。学区4町に約5,300人が暮らす団地の住民が、ひとつにまとまる活動はないだろうか。ここで産まれた住民のみんなが、10年、20年…と時が経っても戻って来る場所がこの藤の木学区であって欲しい。団地再生を兼ねて象徴となる場所が必要なのではないかという考えが、町内会等の会議を重ねる中で生まれました。地域の中でのコミュニケーション、対話、絆の原点の掘り起し策として、目的にときめきを加えたら夢となり、その夢に、知恵と汗と行動を加えたら必ず実現すると思いました。そこで、素朴ではありますが、芝桜を植え、作業を通してコミュニケーションを図ることにしました」と委員長の田中豊さんは語ります。

1年目の平成24年度は、団地東側のり面高さ10メートル、横幅160メートルに渡って、「ふじのきだんち」の7つの花文字の苗の植え込み作業を、草取りから整地までを、町内会の有志によって実施しました。

「作業を始めてからは、参加してくれる住民も少しずつ増え、子どもを含めて最大で約60人という日もありました。普段は顔を合わせる機会の少ない住民が、ひとつの目標に向かって力を合わせて作業をすることで、言葉を交わし、住民同士のコミュニケーションが生まれました。2年目の平成25年度は、7つの文字の周辺を赤色の芝桜で埋める作業に取り組みました。芝桜が咲くのは、平成26年春ですが、綺麗に咲いた時には住民のみんなも喜んでくれるに違いありません。草取りなど、日々の手入れは大変ですが、来年以降の喜びを考えると楽しく感じます。その際には、芝桜祭りを開き、以後毎年開催するつもりです。住民のみんなの記憶に残る、思い出を作っていければ」と田中さんは今後の夢を語ってくれました。



芝桜の苗でつくった文字



▲ 草取りの様子

輝く命のプロジェクト

代表 ^{しもはら よしこ}
下原 好子さん

平成22年に、子どもは親を選んで生まれてくるという胎内記憶をモチーフに、命を見つめる4組の夫婦の物語を描いたドキュメンタリー映画『うまれる』が製作されました。2年後の平成24年2月、この映画を多くの人たちに知ってもらいたいと願う女性たちによって結成されたのが、「輝く命のプロジェクト」です。

映画を通して命の大切さを訴え、地域活動の促進を

「平成24年2月、この上映会に私は友人と参加しました。観終わった後、ふたりで感想を語り合ううちに、もっと多くの人たちにこの映画を観てもらいたい。近年、親が自分の子どもを虐待する事件が多発する中で、映画を通して虐待防止の必要性和、命の大切さを再認識して欲しいと考えるようになり、上映プロジェクトを結成することにしました」と代表の下



▲ スタッフの皆さん

原好子さんは語ります。下原さんたち6人のスタッフは、広島市内の区民文化センターや公民館での自主上映会を開催。毎回、公共施設などでのチラシの配布や、知人への紹介、ソーシャルメディア等を使って上映会をPRしています。

「上映会後、来場された方々に書いていただいたアンケートには、命が生まれる奇跡や家族の絆を感じることができた、といった内容の感想が寄せられています。多くの人たちが、何事にも否定的な考えを持っている今の時代。命の原点に向き合うことで、少しでも前向きに生きる心の糧を感じてもらいたい。人々のそういった意識が高まってくれば、子どもたちの健全育成を図ることができるのでは、と考えています」。

2年目の平成25年度は自主上映会の回数を増やすのはもちろんですが、ママさんタイム上映（赤ちゃん・お子さん連れで映画を鑑賞できる）を実施し、授乳室を設けるなどの工夫も凝らしています。

「今はメンバー 6人での活動ですが、今後はエリア毎に上映スタッフを増やすことも考えています。それが、若い世代の自分たちが生活する地域の活動に対する意識の向上と、活動への参加を促すきっかけ作りになれば。命の大切さについて、意識を高めることは大切です。初めはその考えを持つ人々が少なくても、活動を継続することでやがては大きな輪になっていくのではないのでしょうか」と下原さんは今後の夢を語ってくれました。



映画のチラシ

寄付のお願い

「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)」は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支援していこうという基金です。現在、その基金を取り崩して助成を行っています。私たちの住む広島のまちをよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先	広島銀行広島市役所支店／別段預金 No.3000017
口座名義	公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口 専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません（ただし、広島銀行の窓口からの振込に限りです）。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。 ※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。 ※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日（休日の場合は翌営業日）に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm²(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Mirai-zukuri) ファンド】の略で、頭文字(HMHM)をとって「ふむふむ」と読みます。「ひと」と「まち、をつなぎ、広島、の「未来、を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。

公益信託広島市
まちづくり活動支援基金
ひと・まち広島
未来づくりファンド
ふむふむ
Hm²

(財) 広島市未来都市創造財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は公開により、学識経験者などで構成する運営委員会が審査・選考を行っています。

平成25年度助成団体や助成額等については、(財) 広島市未来都市創造財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

<http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

人材バンク 名人宝人 達人

さまざまな分野の達人たちが登録している
まちづくりボランティア人材バンク。地域活動や
まちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまちを
達人たちがおうかがいしています。

**大切な人のために、愛しい子どもたちのために
やさしい気持ちと、生きる希望がわいてくる
講演活動を継続中**

会社員として勤務していた
2008年、それまでの人生経
験や、行政書士資格者としての
法律の知識を、少しでも若い人
たちの幸せに役立ててもらえれば
という思いで、ブログを書き始め
たのが宮田晃さんです。



ア人材バンク
に登録して、
講演活動を
始めました。
2009
年、県立安
古市高等学
校で「夢を
育てる」を
テーマに生徒
約600人を対

生きがい配達人
宮田 晃さん

**幟旗を再利用した手作り衣裳を着て、
相棒のくま太郎と一緒に交通安全指導を**

今から15年前の1998年、
自宅近くの道路の清掃活動をボ
ランティアで始めた元村操さん。
清掃中、自然と通学路に立つて
子どもたちの登下校を見守るよ
うになりました。

交通安全くま太郎 元村 操さん
ていき、私の傍に置いていると、
その人形を見た園児が「くま太
郎だ」と呼び、その言葉に私は思
わずひらめきました。それ以来、
交通安全教室に出掛ける際には
いつもその人形を持っていくよう
になりました」と元村さんは語
ります。

さらに元村さんは、古い交通
安全の幟旗を再利用し手作りり
衣裳を作って、交通安全指導の
際には着用しています。

「小学校の新生と保護者に
は、出合いがしらの衝突や自転
車との接触事故など、通学路に
潜む危険を伝えて喚起を促して
います。ただ説明するだけでは
面白くないの
で、私はオリジ
ナルの黄色い交
通安全の衣裳
を着て、相棒
のくま太郎を
両手に持って楽
しくなるよう
に説明していま
す。こうするこ
とで、子ども



▲登下校の見守り

象に進路講演会を行ったことが、
宮田さんの転機となります。
「それまではブログの読者のみな
さんとの交流ばかりでしたが、初
めて講演を行いました。内容は、
これまでブログで取り上げた話の
中から、『将来の夢』に関するもの
を選んで、体系立て、アレンジし直
したものです。後日、生徒たちが
書いたアンケートを送ってもらった
のですが、その感想を読んで、感
激して涙が出ました。『夢に向かっ
て行動したいと心から思った』『生
きていく上でとても大切なことを
学んだ』とてもよい講演だった。
また来てほしい」といった言葉があ
ふれていました。うまく思いが伝
わったか心配していたので、生徒の
心に響いたことがわかり、とても
うれしく勇
気づけられ
ました。
宮田さんは
その後、ま
ちづくり市
民交流プラ
ザの「まち



▲広島市内の中学校PTAでの講演会の様子

講演では、そのとき限りの交流
で終わることが多いので、今後宮
田さんは、講演をきっかけに、
PTA関係や地域の方々と、継続
したつながりを作っていくことを、
模索しているようです。



私たちは、目を輝かせながら時に
は笑いながらもしつかりと話を聞
いてくれます。また元々、私は民
謡を歌うことが大好きなので、
歌に合わせてくま太郎を動かして
分かりやすく説明をすること
で、退屈しないで聞いてくれます
ね。活動を通じて出会った子ども
たちの輝く笑顔を見るのが大好
きです」。



▲老人施設での交通安全指導の様子



▲講演の様子

づくりボラ
ンティア人
材バンク」に
登録して、
広島市内の
PTAや、
社会福祉協議会、青少年育成協
議会、公民館などでの講演活動を
本格化します。子育て世代や、青
少年育成や地域活性化に携わる
方を対象に、「愛を伝えるには」
「居場所をつくるには」といった講
演を行っています。

「今でも、参加者の方々からの言
葉が、私の活動の原動力になつて
います。『とても感動しました。自
分にとっても子どもにとっても講演
が聞けてよかった』という中学生の
保護者。『息子が悪くなりはじめ、
不安で途方にくれていた時にお話
を聞けてとてもよかった。涙がで
ました。』というお母さん。『大変
感銘を受けました。60歳を過ぎ
た今、まわりの人の居場所づくり
のお手伝いができればと思っていま
す。』という方など。私も、たくさ
んの学びと元気をもらっています」。

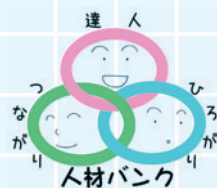
**まちづくりボランティア人材バンクへ
寄せられた声を紹介します**

地域活動や手づくりイベントなど市民
の皆さんが活動する中で、アドバイス
がほしい「教えてほしい」と思うことは
ありませんか？困った時には、その道の
「達人」に講師や指導者をお願いするの
が一番です。

まちづくりボランティア人材バンクで
は、「達人」の紹介・コーディネートをし
ています。ここで達人の活動について、依
頼のあった団体から寄せられた感想を紹
介します。

・参加した子どもたちから「空飛ぶ円盤
が高く飛んで、楽しかった」「今まで作
ることがない物を、紙で作ることができ
て楽しかった」などの感想があり、大変
好評でした。【平成24年8月に実施 子
どもを対象とした紙工作の指導】

・親子で一緒に体を動かす遊び歌、身近に
あるもの（洗濯ばさみなど）で作れる簡
単な遊び道具の作り方を教えていただ
いた。また、参加者の子育て相談にも
のつていただきました。【平成24年12月
に実施 乳幼児の保護者を対象とした
手あそび・工作の指導】



**まちづくりボランティア
人材バンク発表会**

今回ご紹介している方々は、「まちづ
くりボランティア人材バンク」に登録さ
れています。

登録者が自らの達人ぶりを披露しま
す。参加は自由ですので、気軽にお立ち
寄りください。

日時Ⅱ毎月第4土曜日午後2時～4時
場所Ⅱ南棟1階ロビー
参加費・申込Ⅱ不要

月 日	内 容	出演者名
12月28日(土)	干支の置き物づくり	田島 勇さん
1月25日(土)	シャボン玉で笑顔と感動を	為重 清美さん
2月22日(土)	整体師考案の元気健康体操	川本 貴博さん
3月22日(土)	日常生活にすぐに活かせる心理学	米村 哲次さん

※内容等変更になる場合があります。

**紹介申込・登録申込などの
お問い合わせは...**

まちづくり市民交流プラザへ
☎(082)54533911
☎(082)54533838